

Aged pedestrian's road safety

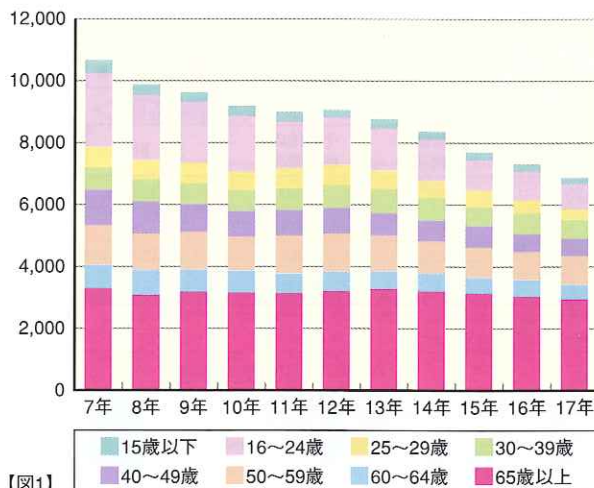
高齢歩行者の交通安全

年齢層別死者数の推移

交通事故による死者数は、図1を見てわかるとおり、ここ10年間では減少傾向が続き、平成17年は、6,871人と6千人台まで減少しています。

年齢層別にみても、各年齢層とも減少傾向にはありますが、65歳以上の高齢者については、死者数に占める構成率

が年々高まっており、平成17年には42.6%と平成7年より12ポイント増加しています。このように、交通事故死者数を減少させるためには、高齢者に対する交通安全対策が最も重要な課題となっています。



	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
15歳以下	384	331	295	321	265	231	270	258	225	221	182
16～24歳	2,416	2,125	2,026	1,790	1,578	1,563	1,402	1,316	1,039	931	829
25～29歳	686	604	596	621	637	602	590	539	497	420	364
30～39歳	742	736	708	670	711	780	810	751	678	716	643
40～49歳	1,120	1,014	884	823	822	804	704	678	637	563	539
50～59歳	1,303	1,232	1,246	1,113	1,209	1,228	1,172	1,066	960	916	887
60～64歳	788	755	733	699	641	692	583	574	557	545	503
65歳以上	3,240	3,145	3,152	3,174	3,143	3,166	3,216	3,144	3,109	3,046	2,924
合計	10,679	9,942	9,640	9,211	9,006	9,066	8,747	8,326	7,702	7,358	6,871
高齢者構成率	30.3%	31.6%	32.7%	34.5%	34.9%	34.9%	36.8%	37.8%	40.4%	41.4%	42.6%

財団法人交通事故総合分析センターは、交通事故と「人間」「道路」「車両」について、科学的・総合的な調査・分析や研究をおこなって交通事故の防止と被害の軽減を図り、快適な道路交通環境の実現に寄与することを目的に設立されました。

つくば市には交通事故総合分析センターの「交通事故調査事務所」があります。つくば事務所では、実際の事故現場で事故の状況を調査していますが、この事故調査は交通事故の低減を目的とした調査・研究のためのもので、警察の捜査や保険会社の調査とは全く別のものです。

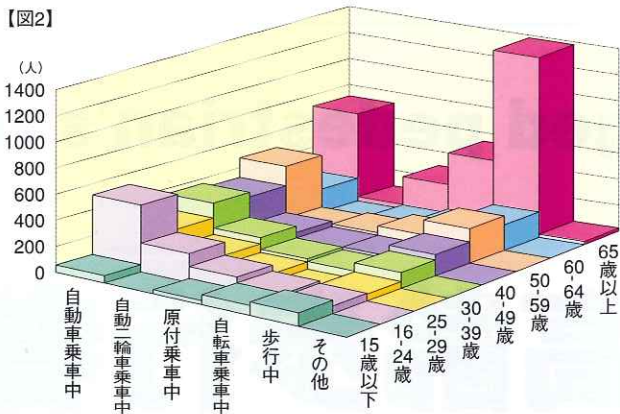


調査中の事故調査員

年齢層別・状態別死者数(平成17年中)

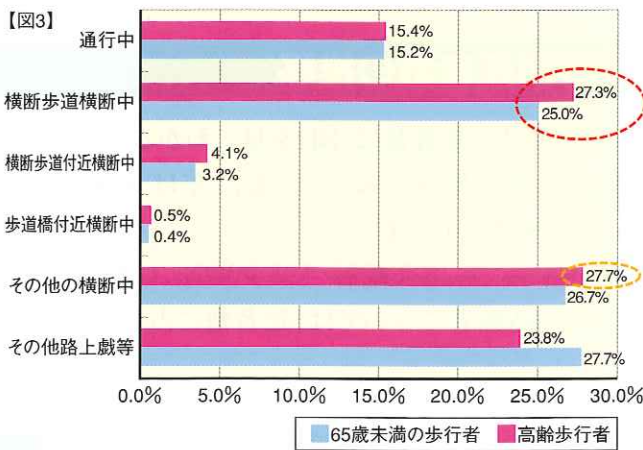
図2は、平成17年中の交通事故死者数について、年齢層別に「自動車に乗車している時」、「自動二輪車(オートバイ)に乗っている時」、「原付に乗っている時」、「自転車に乗っている時」、「歩いている時」の状態別に死者数を分けたものです。

これを見てわかるとおり、65歳以上の「歩行中」(1,372人)の死者数が最も多く、次に65歳以上の「自動車乗車中」(704人)と「自転車乗用中」(508人)が続いています。



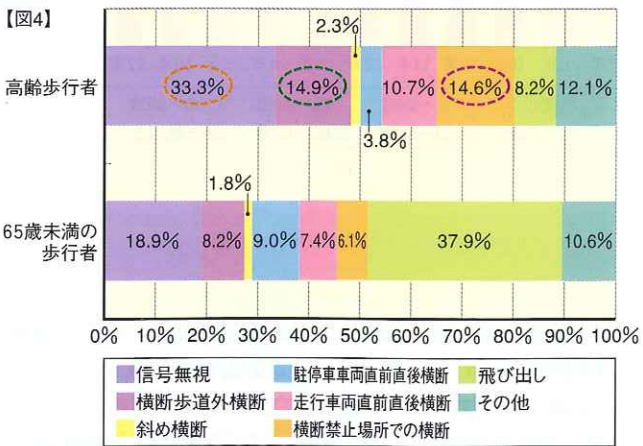
高齢歩行者事故の特徴(平成17年中)

●「横断歩道以外での横断」の死傷者が多いです。
65歳以上の高齢歩行者の事故を事故類型別にみると、図3のように、「横断歩道以外での横断中(その他の横断中)」の死傷者が最も多く、6,189人(構成率27.7%)となっています。
また、高齢歩行者の「横断歩道横断中」の死傷者も、6,110人(構成率27.3%)と多いのですが、65歳未満の歩行者に比べ構成率が2.3ポイント高くなっているのが特徴です。



	通行中	横断歩道横断中	横断歩道付近横断中	歩道橋付近横断中	その他の横断中	その他路上遊戯等	その他の事故類型	合計
高齢歩行者	3,440 15.4%	6,110 27.3%	907 4.1%	114 0.5%	6,189 27.7%	5,327 23.8%	280 1.3%	22,367
65歳未満の歩行者	9,171 15.2%	15,142 25.0%	1,910 3.2%	235 0.4%	16,120 26.7%	16,729 27.7%	1,144 1.9%	60,451

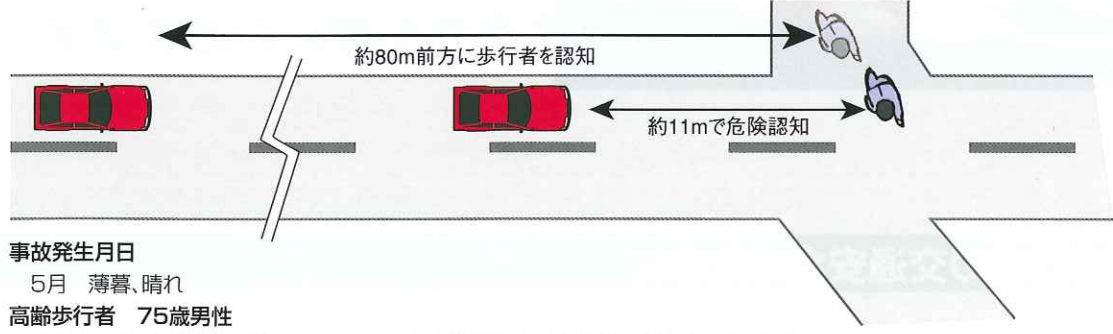
●「信号無視」、「横断歩道外横断」、「横断禁止場所横断」による事故が多いです。
65歳以上の高齢歩行者が第1当事者となった事故を法令違反別にみると、図4のように、「信号無視」が多く、高齢歩行者事故の33.3%を占めています。また、「横断歩道外横断」(14.9%)や「横断禁止場所での横断」(14.6%)などが、65歳未満の歩行者に比べて構成率が高くなっています。反対に、「飛び出しによる事故」の構成率は、8.2%と65歳未満の歩行者(37.9%)に比べて低くなっています。



	信号無視	横断歩道外横断	斜め横断	駐停車車両直前直後横断	走行車両直前直後横断	横断禁止場所での横断	飛び出し	その他	合計
高齢歩行者	228 33.3%	102 14.9%	16 2.3%	26 3.8%	73 10.7%	100 14.6%	56 8.2%	83 12.1%	684
65歳未満の歩行者	573 18.9%	249 8.2%	54 1.8%	272 9.0%	225 7.4%	186 6.1%	1,150 37.9%	322 10.6%	3,031

事故事例

＜事故例-1＞

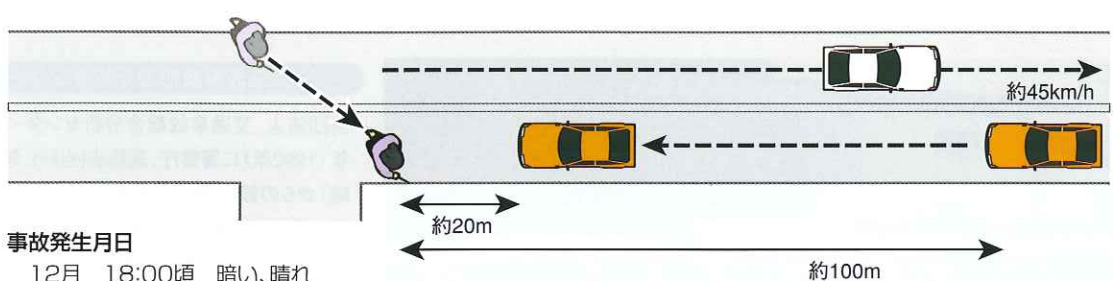


事故発生日
5月 薄暮、晴れ
高齢歩行者 75歳男性
死亡のため、自動車を認知できなかったのか、認知したが不適切な判断をしたか不明。
自動車 20歳代男性
1. ライトの点灯はまだ必要ないと考え、無灯火で約50Km/hの速度で走行。
2. 約80m前方の道路左側に歩行者を認知。
3. 当方から相手歩行者がよく見えるので、歩行者は当方が通り過ぎるまで道路を渡ることはない判断した。
4. 視線を前方に戻したとき、前方約11mの道路中央付近を渡っている歩行者に気付いた。
5. 急ブレーキを掛け、ハンドルを左に切ったが衝突した。

この例での事故の原因は以下のように考えられます。

- ①高齢歩行者: 推測しかできませんが、状況から判断すると、ヘッドライトが点灯されていない自動車の認知が高齢のため遅れたか、あるいは距離・速度の判断を誤ったか、初めから安全確認をしなかったかのいずれかと思われます。
- ②自動車の運転者: まだ明るいと見え、ヘッドライトの点灯をしなかったこと。歩行者を見た時に、自分から相手がよく見えることから、相手も当方に気付いており危険はないと判断し、それ以降、意識しなかったこと。

＜事故例-2＞



事故発生日
12月 18:00頃 暗い、晴れ
高齢歩行者 67歳女性
1. 知人の家に行くため、道路を横断しようとしていた。
2. ちょうど後から来ている車をやり過ごし、その直後に横断開始した。
以下、本人死亡のため詳細は不明であるが、やり過ごした車の陰になり対向車を見落とした、初めから安全確認をしなかった、対向車との距離感を誤ったなどの可能性がある。
自動車 50歳代男性
1. ライトを点灯、約45Km/hで走行、前方の坂の上の信号を見ていた。衝突地点手前100m付近で対向車とすれ違った。
2. 約20m前方を横断中の歩行者に気付いた。
3. 急ブレーキをかけたが間に合わず衝突した。

この例での事故の原因は以下のように考えられます。

- ①高齢歩行者: 推測しかできませんが、状況から判断すると、後続車をやり過ごした直後なので、もう車はいないとの油断が生じ、対向車に対する十分な安全確認をしなかったか、暗さのために距離の判断を誤った可能性があります。
- ②自動車の運転者: 前方を見てはいたが、暗さのため、道路の右端から自分の方に向かって歩いてくる歩行者は見えなかった。明るい信号や、ヘッドライトに照らされた明るい範囲に目を奪われ、暗いところへの注意がおろそかになった。



交通事故調査への
ご協力をお願いいたします。

高齢歩行者の交通安全のために

高齢者の事故といっても、他の年齢層には現れていない事故形態や事故要因が突如として現れるものではありません。現在のところ、高齢者の交通安全に特別の対策があるわけではありませんが、加齢に伴う身体の衰えがあることを自覚するとともに、

- ・ 一時停止場所では、必ず止まって安全を確認する
- ・ 横断歩道を渡る
- ・ 道路を横断するときは、右左をよく確認する（横断歩道でも）

など基本的な安全行動を身に付け、絶えず実践することが重要です。

また、外出時には目立つ色の服装をしたり、反射材を身に付けるなど、車から認知されやすいようにして、事故から身を守るという手段・方法も大切です。



交通事故総合分析センターの調査車両は緊急自動車に指定されています

交通事故総合分析センター

財団法人 交通事故総合分析センターは、平成4年（1992年）に警察庁、運輸省（当時）、建設省（当時）からの設立許可を受け設立された道路交通法に基づき国家公安委員会の指定を受けた交通事故の防止と被害の軽減のための調査・分析を行っている日本で唯一の研究機関です。

お問合せ先

（財）交通事故総合分析センター

ホームページ <http://www.itarda.or.jp>
Eメール koho@itarda.or.jp

つくば交通事故調査事務所

〒305-0831 茨城県つくば市西大橋字大塚647
TEL029-855-9021 FAX029-855-9131

事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町6-6 麹町東急ビル5階
TEL03-3515-2525 FAX03-3515-2519